

志政あやせ 古郡 敏正



本市の持続的発展を目指し 厚木基地とどう向き合うか



上限額見直しと、農家が抱える課題に対応する新たな補助制度を考えないか。



物価高騰に応じる効果的 で柔軟な支援策の実施を



JAさがみを通じて毎年ヒアリングを実施し、実情やニーズ把握に努めるとともに、適宜、補助内容を見直している。新たな支援策の必要なことから、一定の負担はあるものと認識している。

果的で公平な支援策になると考へる。さまざまなお給付方法を調査研究していく。

- 災害発生時における厚木基地と綾瀬市の連携体制
- 第二種区域の見直しにより、移転補償跡地が区域外となつた場合、どのような取り扱いとなるのか。

1件当たりの平均所要時間が通常の出動より長く、一時的な救急体制の逼迫の要因となることから、一定の負担はあるものと認識している。

JAさがみを通じて毎年ヒアリングを実施し、実情やニーズ把握に努めるとともに、適宜、補助内容を見直している。新たな支援策の必要なことから、一定の負担はあるものと認識している。

● 物価高騰対策について

Q お米券に限定せず、幅広く利用できる商品券や電子クーポンを活用する考えは。

● 投票しやすい環境整備について

Q 若年層への啓発策として、SNSの活用やデザイン性のある投票済証明書を作成しないか。

- 災害発生時における厚木基地と綾瀬市の連携体制
- 第二種区域の見直しにより、移転補償跡地が区域外となつた場合、どのような取り扱いとなるのか。

厚木基地との連携体制は、災害対応準備と災害救援活動の相互支援に関する活動範囲を定めた覚書を締結しており、実行性の確保のため、連携強化に努めていく。

● 農業者支援と営農環境の充実

Q 農業振興事業補助金の趣旨を踏まえ、即時性や利便性、コスト縮減などを総合的に考慮し、商品券や電子クーポンの活用も検討していく。

● 物価高騰対策について

Q お米券に限定せず、幅広く利用できる商品券や電子クーポンを活用する考えは。

● 投票しやすい環境整備について

Q 若年層への啓発策として、SNSの活用やデザイン性のある投票済証明書を作成しないか。

● 市民投票の実施について

Q 子育て世帯への投票促進策や、未来の投票行動につながる観点から、投票に同行した子どもに対し、記念シールなどの配付を考えないか。

● 委員会と委員会

Q 本会議では、議員全員で構成する会議のことをいい、年4回3月、6月、9月、12月に開催され、必要に応じて臨時会も開催されます。議会としての権限や能力は本会議に認められるもので、議会の議決、承認、同意などは、この本会議で行われなければ法的な効力はありません。



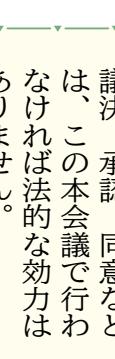
不登校の子ども一人一人に 合わせた学びの支援体制は



不登校の資源化によりコスト 削減と環境負荷を低減する資源の循環について



トと環境負荷の低減を



公明党

野田 広吉

- 本市の不登校児童・生徒の学びの支援について
- 不登校児童・生徒数の現状は。

A 全国的に増加傾向があり、本市も令和4年度は248人、5年度は282人と増加傾向にあつたが、6年度は254人で28人減となつた。

Q 困難を抱える子どもたちが発するSOSをどのように把握しているか。

A 教職員が児童・生徒の様子を日頃から細かく観察し、変化などの発見に努めているほか、各小・中学校でスクールアンケートを月に1度実施するなど、子どもから話を聞く機会を設け、状況把握を行っている。さらに、令

- 本市の不登校児童・生徒の学びの支援について
- 不登校児童・生徒数の現状は。

A 全国的に増加傾向があり、本市も令和4年度は248人、5年度は282人と増加傾向にあつたが、6年度は254人で28人減となつた。

Q 困難を抱える子どもたちが発するSOSをどのように把握しているか。

A 教職員が児童・生徒の様子を日頃から細かく観察し、変化などの発見に努めているほか、各小・中学校でスクールアンケートを月に1度実施するなど、子どもから話を聞く機会を設け、状況把握を行っている。さらに、令



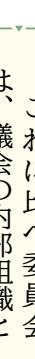
不登校の子ども一人一人に 合わせた学びの支援体制は



不登校の資源化によりコスト 削減と環境負荷を低減する資源の循環について



トと環境負荷の低減を



公明党

天笠 哲史

- 廃棄物を資源とする処分費削減と環境負荷を低減する資源の循環について
- 伐採材の一部を薪や工作材料などに再利用し、市民に還元できないか。

A 細かく碎きチップ化した後に花壇などへ敷き詰め、雑草対策としているほか、花壇の枠などの補修材としても活用している。薪などの提供は考えていないが、再利用の事例を参考にしていく。

● 廃棄物を資源とする処分費削減と環境負荷を低減する資源の循環について

Q さまざまなりサイクル施策を検索しやすくするため、市公式LINEの表示を工夫しないか。

● 市民投票の実施について

Q さまざまな表示は、情報が多いと見づらくなる場合もあるため、ホームページにリンクするガイドを作成するなど、検討していく。

● 委員会と委員会

Q ごみに関する表示は、情報が多いと見づらくなる場合もあるため、ホームページにリンクするガイドを作成するなど、検討していく。

- 廃棄物を資源とする処分費削減と環境負荷を低減する資源の循環について
- 伐採材の一部を薪や工作材料などに再利用し、市民に還元できないか。

A 細かく碎きチップ化した後に花壇などへ敷き詰め、雑草対策としているほか、花壇の枠などの補修材としても活用している。薪などの提供は考えていないが、再利用の事例を参考にしていく。

● 廃棄物を資源とする処分費削減と環境負荷を低減する資源の循環について

Q さまざまなりサイクル施策を検索しやすくするため、市公式LINEの表示を工夫しないか。

● 市民投票の実施について

Q ごみに関する表示は、情報が多いと見づらくなる場合もあるため、ホームページにリンクするガイドを作成するなど、検討していく。

● 委員会と委員会

Q ごみに関する表示は、情報が多いと見づらくなる場合もあるため、ホームページにリンクするガイドを作成するなど、検討していく。

- 本市の不登校児童・生徒の学びの支援について
- 不登校児童・生徒数の現状は。

A 全国的に増加傾向があり、本市も令和4年度は248人、5年度は282人と増加傾向にあつたが、6年度は254人で28人減となつた。

Q 困難を抱える子どもたちが発するSOSをどのように把握しているか。

A 教職員が児童・生徒の様子を日頃から細かく観察し、変化などの発見に努めているほか、各小・中学校でスクールアンケートを月に1度実施するなど、子どもから話を聞く機会を設け、状況把握を行っている。さらに、令

- 本市の不登校児童・生徒の学びの支援について
- 不登校児童・生徒数の現状は。

A 全国的に増加傾向があり、本市も令和4年度は248人、5年度は282人と増加傾向にあつたが、6年度は254人で28人減となつた。

Q 困難を抱える子どもたちが発するSOSをどのように把握しているか。

A 教職員が児童・生徒の様子を日頃から細かく観察し、変化などの発見に努めているほか、各小・中学校でスクールアンケートを月に1度実施するなど、子どもから話を聞く機会を設け、状況把握を行っている。さらに、令

- 本市の不登校児童・生徒の学びの支援について
- 不登校児童・生徒数の現状は。

A 全国的に増加傾向があり、本市も令和4年度は248人、5年度は282人と増加傾向にあつたが、6年度は254人で28人減となつた。

Q 困難を抱える子どもたちが発するSOSをどのように把握しているか。

A 教職員が児童・生徒の様子を日頃から細かく観察し、変化などの発見に努めているほか、各小・中学校でスクールアンケートを月に1度実施するなど、子どもから話を聞く機会を設け、状況把握を行っている。さらに、令

- 本市の不登校児童・生徒の学びの支援について
- 不登校児童・生徒数の現状は。

A 全国的に増加傾向があり、本市も令和4年度は248人、5年度は282人と増加傾向にあつたが、6年度は254人で28人減となつた。

Q 困難を抱える子どもたちが発するSOSをどのように把握しているか。

A 教職員が児童・生徒の様子を日頃から細かく観察し、変化などの発見に努めているほか、各小・中学校でスクールアンケートを月に1度実施するなど、子どもから話を聞く機会を設け、状況把握を行っている。さらに、令

- 本市の不登校児童・生徒の学びの支援について
- 不登校児童・生徒数の現状は。

A 全国的に増加傾向があり、本市も令和4年度は248人、5年度は282人と増加傾向にあつたが、6年度は254人で28人減となつた。

Q 困難を抱える子どもたちが発するSOSをどのように把握しているか。

A 教職員が児童・生徒の様子を日頃から細かく観察し、変化などの発見に努めているほか、各小・中学校でスクールアンケートを月に1度実施するなど、子どもから話を聞く機会を設け、状況把握を行っている。さらに、令

- 本市の不登校児童・生徒の学びの支援について
- 不登校児童・生徒数の現状は。

A 全国的に増加傾向があり、本市も令和4年度は248人、5年度は282人と増加傾向にあつたが、6年度は254人で28人減となつた。

Q 困難を抱える子どもたちが発するSOSをどのように把握しているか。

A 教職員が児童・生徒の様子を日頃から細かく観察し、変化などの発見に努めているほか、各小・中学校でスクールアンケートを月に1度実施するなど、子どもから話を聞く機会を設け、状況把握を行っている。さらに、令

- 本市の不登校児童・生徒の学びの支援について
- 不登校児童・生徒数の現状は。

A 全国的に増加傾向があり、本市も令和4年度は248人、5年度は282人と増加傾向にあつたが、6年度は254人で28人減となつた。

Q 困難を抱える子どもたちが発するSOSをどのように把握しているか。

A 教職員が児童・生徒の様子を日頃から細かく観察し、変化などの発見に努めているほか、各小・中学校でスクールアンケートを月に1度実施するなど、子どもから話を聞く機会を設け、状況把握を行っている。さらに、令

- 本市の不登校児童・生徒の学びの支援について
- 不登校児童・生徒数の現状は。

A 全国的に増加傾向があり、本市も令和4年度は248人、5年度は282人と増加傾向にあつたが、6年度は254人で28人減となつた。

Q 困難を抱える子どもたちが発するSOSをどのように把握しているか。

A 教職員が児童・生徒の様子を日頃から細かく観察し、変化などの発見に努めているほか、各小・中学校でスクールアンケートを月に1度実施するなど、子どもから話を聞く機会を設け、状況把握を行っている。さらに、令

- 本市の不登校児童・生徒の学びの支援について
- 不登校児童・生徒数の現状は。

A 全国的に増加傾向があり、本市も令和4年度は248人、5年度は282人と増加傾向にあつたが、6年度は254人で28人減となつた。

Q 困難を抱える子どもたちが発するSOSをどのように把握しているか。

A 教職員が児童・生徒の様子を日頃から細かく観察し、変化などの発見に努めているほか、各小・中学校でスクールアンケートを月に1度実施するなど、子どもから話を聞く機会を設け、状況把握を行っている。さらに、令

- 本市の不登校児童・生徒の学びの支援について
- 不登校児童・生徒数の現状は。

A 全国的に増加傾向があり、本市も令和4年度は248人、5年度は282人と増加傾向にあつたが、6年度は254人で28人減となつた。

Q 困難を抱える子どもたちが発するSOSをどのように把握しているか。

A 教職員が児童・生徒の様子を日頃から細かく観察し、変化などの発見に努めているほか、各小・中学校でスクールアンケートを月に1度実施するなど、子どもから話を聞く機会を設け、状況把握を行っている。さらに、令

- 本市の不登校児童・生徒の学びの支援について
- 不登校児童・生徒数の現状は。

A 全国的に増加傾向があり、本市も令和4年度